

新型コロナウイルスの感染拡大を機に、 空港から畑に出勤

出向元

株式会社JALグランドサービス
(JGS)
(千葉県成田市)



出向先

有限会社さかき
(千葉県香取市)

経緯・概要

- ・JALグランドサービス(JGS)は、国内の航空輸送のグランド・ハンドリング業界の草分けとして、1957年3月1日に設立。
- ・成田、羽田、大阪、福岡、札幌、長崎の各空港において、日本航空をはじめとする世界の主要航空会社の地上サービスを担う。
- ・新型コロナウイルス感染拡大による移動制限などで観光やビジネスで空港利用者が激減した2020年初春、従業員の雇用維持と外部で経験を積む人材育成を目的として、JGS成田支店の従業員を社外出向させる取り組みを検討。
- ・合計13社に従業員と出向させる協定を締結。この内、農業法人は有限会社さかき他3社。2020年5月から派遣を開始。
- ・管理職以外のほぼ全従業員に、年齢・性別を区別することなく声をかけ、所属組織長と相談のうえ、派遣先を決定。
- ・2022年までに、農業法人へ約60名が出向。(現在、本取り組みは終了。)



安心かつ迅速な空港地上サービスを提供

< 形態 >	在籍型出向
< 待遇 >	給与・手当、社会保険等は出向前と同じ。作業時の労災は、出向先が負担。 ※さかきが、取り決めた時給を一旦JGSへ支払い、社内給与との差分はJGSが負担して従業員に支払われる。
< 就労時間、期間 >	出向先により異なる。土日に関係なく、農業法人3社に、各2～10名程度が出向。期間は1ヶ月単位で最長6ヶ月。

従業員を農業法人へ出向させてみて・・・

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、業務が激減した従業員の雇用維持を図るための施策としては成功。
- ・他業界で経験を積み、従業員の視野を広げるという人材育成の効果も実感できた。様々なシナジー効果を発揮してくれることを期待している。
- ・いろいろなことに挑戦できるチャンスと捉えた前向きな社員も多く、従業員はリフレッシュし、戻ってきてから活気に溢れている。
- ・従来から社会貢献の観点から地域イベントに多くの従業員が参加しているが、今回の地域の農業法人への出向は、地元の方々が多く関わっているおり、地域との結びつきが一層強くなった。

出向先の概要

- ・さかきは、1993年10月に設立した農事組合法人と郷園の組合員。
- ・20haの土地で主力のトマトをはじめ、露地野菜、施設野菜の多種多様な品目を生産し、青果向け販売・外食加工向け販売・直販と複合経営を行う。
- ・2021年の春、新型コロナウイルス感染拡大のため技能実習生が帰国し、農繁期に労働力が不足する心配があった。その頃、JGSの従業員の受け入れの相談があり、JALグループの社員であることの安心感もあり、5月に協定を締結。
- ・繁忙期にあたる2021年10～11月の2ヶ月間で4名、2022年も別の社員4名を受け入れ（累計8名）。



農場風景



主力商品のトマト（フルティカ）

実際に受け入れてみて・・・

- ・まずは、2ヶ月間のスポットでの支援であったが、農繁期であったため非常に有難かった。
- ・JALグループの社員は、大手企業の出身ということもあり、しっかり教育されていて、作業の理解力も早かった。普段から空港で荷物などを扱っていることもあり、力仕事にでも迅速かつ丁寧に対応してくれた。



さかきの従業員の皆さん

- ・以前は、人材派遣会社から、短期雇用の受け入れや、農繁期のアルバイト求人などを利用して対応していたが、JGSからの従業員は仲介手数料もなく、コスト面でも助かった。
- ・受け入れに際して、労働時間の管理に必要なタイムカードレコーダーを導入したほか、新たに休憩スペース、冷蔵庫、洗濯機を準備し、少しでも快適に働けるような環境を整備した。
- ・今後も機会があれば出向人材を受け入れていきたい。

出向元企業

株式会社JALグランドサービス（JGS） 成田支店

- ＜所在地＞ 千葉県成田市古込字古込1-1 成田オペレーションセンター
- ＜代表＞ 代表取締役社長 執行役員 上島 治
- ＜法人設立＞ 1957年3月1日
- ＜売上高＞ 198億円（2021年度）
- ＜社員数＞ 2,109名。うち成田支店 約950名（2022年4月1日現在）
- ＜事業概要＞ 航空輸送のグランド・ハンドリング事業

出向先農業法人

有限会社さかき

- ＜所在地＞ 千葉県香取市新里1338
- ＜代表＞ 代表取締役社長 木内 克則（JAL Agriport株式会社の役員兼務）
- ＜法人設立＞ 1993年
- ＜売上高＞ 2億4000万円（2022年9月）
- ＜社員数＞ 22名（役員1名（男1）、正社員7名（男7）、常勤パート14名（男1、女13））、技能実習生10名受け入れ（男5、女5）（2022年12月現在）
- ＜事業概要＞ 露地野菜（さつまいも、ごぼう、人参、ホウレンソウ）、施設野菜（トマトなど）の生産・販売
- ＜経営規模＞ 露地野菜18.5ha、施設野菜1.5ha



JALグループの地域との連携強化

新型コロナウイルス感染拡大の影響をきっかけに、他のJALグループ会社でも、地元の道の駅に出向するといった取り組みや、地元産野菜を使った農家レストランをオープンするなど地域との関りを強めている。

シニア層のキャリア創出と 地域社会との良好な関係構築を実現

出向元

ダイハツ工業株式会社

出向先

農事組合法人
山之上生産組合
組合員：
株式会社ファームタケヤマ
(滋賀県蒲生郡竜王町)

経緯・概要

- ・ダイハツ工業は自動車の製造などを主に行っており、滋賀工場は、1974年に第一地区、1989年に第二地区が操業開始。
- ・先端設備の導入により省人化が実現。また、50代の従業員割合が、まもなく3割になることが想定される中、シニア層のキャリア創出が課題となり、多様な働き方を支援する必要があった。
- ・2019年、山之上生産組合とダイハツ工業幹部の会合を機に、同組合員への出向の検討がスタート。2020年8月、両社の間で「社員出向（社外応援）に関する議定書」締結。
- ・出向希望者は手挙げ方式で、各部門の課長の承認により決定。現在39人の従業員が出向登録中（うち50代が35人）。出向人数は、現在3人（2022年10月時点）。
- ・出向先での作業内容は、危険を伴わない野菜の播種・収穫、果樹園内・園芸ハウス内の作業、直売所や道の駅での販売（計量や袋詰めなどの作業）など。



滋賀工場の様子

< 形 態 >	在籍型出向
< 待 遇 >	給与・手当、社会保険等は出向前と同じ。 作業時の労災は、山之上生産組合が負担。 ※ファームタケヤマが、ダイハツ工業に労働時間を毎月報告し、 時給換算した費用を一旦山之上生産組合に納付。山之上生産組 合が、ダイハツ工業へ支払い、社内の給与との差分をダイハツ 側で負担して従業員に支払う。
< 就労時間、期間 >	就労時間は、8:30～12:00と13:00～16:30の半日単位。出向日数、 時間は、農業法人の要望で決定。

従業員を農業法人へ出向させてみて・・・

- ・地域貢献に資する取組であり、セカンドキャリアの創出に関しては、一定の効果がえられた。企業としてのイメージ向上にもつながる取り組み。
- ・農作業で自然に触れることにより、参加した従業員はリフレッシュしている。
- ・直売所で自ら育てた農産物を販売し、お客様に喜ばれた体験など、異業種での経験が仕事へのモチベーション向上につながっている。
- ・取り組みの開始時、工場外の勤務に対して、社員側に多少の戸惑いが見受けられたが、人事の協力を得て丁寧に説明し、理解・納得を得ることができた。
- ・この取り組みをきっかけに、他のセカンドキャリアの施策も動き出している。例えば、今回、関係が深まった派遣先の農家からアドバイスを受け、工場近隣の竹林の竹から作った炭を道の駅で販売するなど、地域活動の範囲も広がっている。



直売所で働く出向社員（左）

出向先の概要

- ・山之上生産組合の組合員である株式会社ファームタケヤマは、2012年4月に法人化。稲作、果樹を中心とした農作物の生産、農作業の受託、直売、観光果樹農園運営などを行っている。
- ・離農する圃場を預かるケースも増え、また従業員の高齢化や人手不足が顕在化してきたことから、人材の受け入れを検討。
- ・他の農業法人に出向しているダイハツ工業社員の高い評判を聞き、従業員が退職したことを契機に、受け入れを決定。

実際に受け入れてみて・・・



ファームタケヤマの
果樹園

- ・当初、出向者が農業未経験のシニアが中心であるため、どの程度の作業ができるのか不安だったが、芽かきや梨の適果などの危険を伴わない軽作業を担当してもらい、十分な戦力となっている。労働時間、作業内容などを工夫することで、人海戦術もでき、期待以上。
- ・雇用日数の縛りもなく、スケジュールが合えば前日に依頼することもでき、半日の作業でも頼むことができる。1日の予定であっても、午前中に作業が完了した場合は半日で終了してもらうことも可能であり、利便性が高い。
- ・出向契約には、免許が必要な大型機械を扱う作業はさせない、作業の合間に休憩を取らせるよう取り決めがある。効率よく業務が行えるよう、指示の出し方を含めてマネジメント方法の改善にも積極的に取り組んでいる。
- ・圃場を増やす計画もあるので、今後も受入れは継続したい。

出向元企業

ダイハツ工業株式会社

- <所在地> 大阪府池田市ダイハツ町1番1号
- <代表> 代表取締役社長 奥平 総一郎
- <法人設立> 1907年3月1日
- <資本金> 284億円
- <事業概要> 自動車、産業車両、その他各種車両およびその部品の製造、販売、賃貸および修理他
- <滋賀（竜王）工場>
 - ・所在地 滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上2910番地 /3000番地
 - ・社員数 4,171名（第一地区2,410名、第二地区1,761名）（2022年6月1日時点）

出向先農業法人

農業組合法人山之上生産組合

- <所在地> 滋賀県蒲生郡竜王町大字山之上6969番地
- <代表> 寺島 健一
- <法人設立> 2015年10月
- <売上高> 850万円（2022年9月）
- <事業概要> 組合員数153名、経営面積60ha、果樹と野菜の生産

組合員 株式会社ファームタケヤマ

- <所在地> 本社：滋賀県蒲生郡竜王町山之上3401
- <代表> 竹山 勉
- <法人設立> 平成24年（2012年）4月
- <売上高> 約1億円（2022年3月）
- <社員数> 7名（役員2名（男1、女1）、従業員5名（男5））
- <事業概要> 農作物の生産、農作業の受託、直売、観光果樹農園運営。生産品目は、稲作、麦類作、大豆、露地野菜（キャベツ）、果樹（ブドウ、梨、いちじく）、花卉（ユウカリ他）。稲作、果樹が中心
- <経営規模> 水田：50ha、樹園地：1.3ha

県外移住のスタッフ、選手が農業を通じて地域に貢献

所属元

南紀オレンジサンライズFC
株式会社Re・Side
(和歌山県田辺市)



副業先

てらうめ有限会社
(和歌山県日高郡みなべ町)

経緯・概要



- ・南紀オレンジサンライズFCは、2022年より本格始動した移住と農業を組み合わせた新しい社会人サッカークラブで、ほとんどの選手・スタッフは県外の移住者。
- ・ホームタウンである田辺市とみなべ町は梅の生産地として知られ、2015年12月には世界農業遺産に認定されているが、梅農家では高齢化や後継者問題に直面。
- ・チームスタッフ及び登録選手がサッカーだけでなく、農業の後継者問題や少子高齢化などの地域の課題解決に取り組み、地方創生を実現させる取り組みをスタート。

・2021年末からサッカークラブの運営会社である株式会社Re・Sideが、各企業や農家と交渉し、2022年末には、みなべ町と田辺市にある農業法人3社、梅加工会社2社など約20社で、監督をはじめ、チームスタッフ、登録選手が働く。

< 形 態 >	スポーツ事業部所属の正社員、パート契約の従業員等の副業斡旋。 ※登録選手は、雇用関係がないため、就職先の斡旋。 運営会社が所属元となり副業先と契約。
< 待 遇 >	給料・手当（副業先により異なる）、作業時の労災あり」。
	所属元企業 ・正社員：給与（月給制）・手当、社会保障（雇用保険、健康保険、年金保険、労災保険） ・パート契約従業員：給料（月給制）・手当、スポーツ保険）
< 就労時間、期間 >	試合と練習の時間は避け、副業先との交渉で決定。

従業員を農業法人に副業斡旋してみてもいい

- ・地域とも良い関係が構築できている。サッカーにあまり興味のない農家の方にもチームを応援してもらえ、選手やスタッフは、地域貢献の一翼を担うことで、サッカーへのモチベーションが向上している。副業先は、チームのスポンサーでもあり、HPのバナー広告やユニフォームの広告に協力してもらっている。
- ・果樹園での農作業は、力作業も多く、足腰が鍛えられるため、サッカーのトレーニングにもなる。
- ・今後、選手がセカンドキャリアとして、後継者、人材不足の農業で歩めるようにも取り組んでいきたい。



和歌山県社会人サッカーリーグ参入1年目で
リーグ3部で優勝、2部に昇格

副業先の概要

- ・1965年に法人設立したてらうめでは、無農薬・無肥料農法で梅を栽培し、加工や販売を行う。自社農園「てらがき農園」での梅もぎ体験や食育の取り組みなども実施。
- ・通常、繁忙期（5～6月）には臨時のアルバイトなどを採用していたが、Re・Sideからスタッフ受け入れの話を受け、人材を確保、地元チームの応援の観点で、県外人材のサッカー監督M氏を通年雇用。繁忙期は農作業。それ以外は商品の加工工場で作業を行う。



自社農園のてらがき農園

実際に受け入れてみて

- ・これまで当たり前と考えていた商品販売に関することにも意見やアイデアを出してくれるので、大変参考になる。



無農薬、無肥料農法で作る南高梅

- ・仕事以外でもサッカーや地域活動について、SNSを活用して従業員とコミュニケーションをとっていることが、雰囲気の良い職場に繋がっている。今後も雇用を継続したい。

所属元企業

南紀オレンジサンライズFC 株式会社Re・Side

- ＜所在地＞ 和歌山県田辺市湊12-26
- ＜代表＞ 代表取締役 後藤 大和、 南紀オレンジサンライズFC代表 森永 純平
- ＜法人設立＞ 2021年11月22日
- ＜売上高＞ 約4,600万円（2022年11月）
- ＜社員数＞ 南紀オレンジサンライズFCのスタッフ：5人（Re・Sideスポーツ事業）
※選手は18名（2022年12月）
- ＜事業概要＞ IT事業、サッカークラブ運営、教育事業

副業先農業法人

てらうめ有限会社

- ＜所在地＞ 和歌山県日高郡みなべ町西岩代1204
- ＜代表＞ 代表取締役社長 寺垣 信男
- ＜法人設立＞ 1965年 創業、2006年 法人化
- ＜売上高＞ 約5,000万円（2021年）
- ＜社員数＞ 7名（役員2名（男1、女1）、従業員4名（男1、女3）、常勤パート1名（男1））
- ＜事業概要＞ 果樹（南高梅）生産・加工・販売、食育や梅もぎ体験
- ＜経営規模＞ 樹園地5ha



スポーツと地域活性化

南紀オレンジサンライズFCの選手は農業等で収入を得ている。梅農園を持つ井上梅干食品株式会社では、若手のK選手を受け入れた。K選手は、労働に対するモチベーションも高く、力仕事も含め、働きぶりは地元でも評判になっている。あまりサッカーに詳しくない従業員もサッカーに関心を持ち、南紀オレンジサンライズFCを応援するようになった。



井上梅干食品 みなべ店